

1月27日に日本野球規則委員会より、2023年度の野球規則改正が発表されました。改正点は2点です。

- ① いわゆる「大谷ルール」といわれている1人の選手が指名打者としても先発投手としても出場を可能にしたこと
  - ② 正式試合となる前に打ち切られた試合でも条件によっては継続試合を可能としたこと
- 発表された内容は以下のとおりで、**赤く**表示した部分が改正された内容です。

現 行	改 正 後
<p>5.11 指名打者 リーグは、指名打者ルールを使用することができる。</p> <p>(a) 省略</p> <p>(b) 指名打者ルールを使用しているリーグに所属するチームと、これを使用していないリーグに所属するチームとが試合を行なうときには、これを使用するかどうかは次の定めによる。</p> <p>(1) ワールドシリーズまたは非公式試合では、ホームチームがこれを使用しているときには、使用する。ホームチームがこれを使用していないときには、使用しない。</p> <p>(2) オールスターゲームでは、両チームと両リーグが同意したときだけ、使用する。</p> <p>【注1】 我が国のプロ野球では、(b)項(1)におけるワールドシリーズを日本シリーズと置きかえて適用する。なお、非公式試合において、(b)項(1)により指名打者ルールを使用しない試合でも、両チーム監督の合意があれば、指名打者ルールを使用することができる。</p>	<p>5.11 指名打者</p> <p style="text-align: center;"><del>削除</del></p> <p>(a) 省略(変更なし)</p> <p>(b) チームは投手に代わる打者を指名する義務はない。しかしながら、先発投手自身が打つ場合には、本条(a)項により、別々の2人として考えることができる。監督は自分のチームの打順表に10人のプレーヤーを記載し、このプレーヤーにおいて、一つは先発投手、もう一つは指名打者として2度、同じ名前を記載することになる。もしこのプレーヤーが投手を退いたとしても、指名打者としては出場し続けることはできるが、再び投手として出場することはできない。また、このプレーヤーが指名打者を退けば、投手として出場し続けることはできるが、再び打者として打席に立つことはできない。</p> <p>このプレーヤーが投手と指名打者の両方を同時に退くことになった場合、それに置き換わる投手と指名打者両方の役割を満たす他のプレーヤーに代わることはできない。チームにおいて、先発投手自身が指名打者としても打つことができる本規定を採用するかは、最初の打順表で記載するときのみできる。</p> <p>本条(a)項にもかかわらず、その投手が指名打者として打つかまたは走者になったとしても、チームに対する指名打者の役割は消滅しない。また、その指名打者が投手の役割を引き受けた場合においても、その役割は消滅しない。しかし、そのプレーヤーが投手として降板し、投手以外の守備位置に移った場合には、それ以後指名打者の役割は消滅する。</p> <p>【注1】 <del>削除</del></p>

<p>【注2】 アマチュア野球では、指名打者ルールについては、各連盟の規定を適用する。</p>	<p>【注2】 <u>削除</u></p> <p>【5.11注】 我が国では、指名打者ルールについては、所属する団体の規定に従う。</p>
<p>7.01 正式試合 (e) 正式試合となる前に、球審が試合の打ち切りを命じた場合には、“ノーゲーム”を宣告しなければならない。</p>	<p>7.01 正式試合 (e) 正式試合となる前に、球審が試合の打ち切りを命じた場合には、“ノーゲーム”を宣告しなければならない。(7.02(a)(3)～(5)に従い、サスペンデッドゲームが宣告される場合を除く)。異常事態によって試合を打ち切らなければならない場合には、リーグ会長の判断でサスペンデッドゲームとする。</p>
<p>7.02 サスペンデッドゲーム(一時停止試合) (a) 試合が、次の理由のどれかによって打ち切られた場合、後日これを完了することを条件としたサスペンデッドゲームとなる。 (1) 法律による娯楽制限。 (2) リーグ規約による時間制限。 (3) 照明の故障、またはホームクラブが管理している競技場の機械的な装置《(たとえば開閉式屋根、自動キャンバス被覆装置などの排水設備)の故障(オペレーターの過失を含む)》 (4) 暗くなったのに、法律によって照明の使用が許されていないため、試合続行が不可能となった場合。 (5) 天候状態のために、正式試合のある回の途中でコールドゲームを宣せられた試合で、打ち切られた回の表にビジティングチームがリードを奪う得点を記録したが、ホームチームがリードを奪い返すことができなかった場合。 (6) 正式試合として成立した後に、同点で打ち切られた場合。 本項の(1)(2)(5)(6)によって終了となった試合については、7.01の規定による正式試合となりうる回数が行なわれていない限りこれをサスペンデッドゲームとすることはできない。 本項の(3)または(4)の理由で打ち切りが命じられたときは、行なわれた回数には関係なく、これをサスペンデッドゲームとすることができる。</p> <p>【付記】 コールドゲームをサスペンデッドゲームとするかどうかを決定するに当たっては、天候状態およびこれに類する理由一本項(1)～(5)が優先される。 試合が、天候状態で停止した後に、照明の故障、娯楽制限、時間制限により続行ができなくなった場合は、サスペンデッドゲームとすること</p>	<p>7.02 サスペンデッドゲーム(一時停止試合) (a) 試合が、次の理由のどれかによって打ち切られた場合、後日これを完了することを条件としたサスペンデッドゲームとなる。 (1) 法律による娯楽制限。 (2) リーグ規約による時間制限。 (3) 照明の故障、またはホームクラブが管理している競技場の機械的な装置《(たとえば開閉式屋根、自動キャンバス被覆装置などの排水設備)の故障(オペレーターの過失を含む)》 (4) 暗くなったのに、法律によって照明の使用が許されていないため、試合続行が不可能となった場合。 (5) 天候状態のために、<b>正式試合となる前に打ち切りを命じられた場合、または正式試合のある回の途中でコールドゲームを宣せられた試合で、打ち切られた回の表にビジティングチームがリードを奪う得点を記録したが、ホームチームがリードを奪い返すことができなかった場合。</b> (6) 正式試合として成立した後に、同点で打ち切られた場合。 <b>リーグ会長による指示がない限りは、本項の(1)(2)(6)によって終了となった試合については、7.01(c)の規定による正式試合となりうる回数が行なわれていない限りこれをサスペンデッドゲームとすることはできない。</b> 本項の(3)～(5)の理由で打ち切りが命じられたときは、行なわれた回数には関係なく、これをサスペンデッドゲームとすることができる。</p> <p>【付記】 <u>削除</u></p>

はできない。試合が、照明の故障で停止した後に、天候状態や競技場の状態で再開できなくなった場合も、サスペンデッドゲームとすることはできない。本項に規定されている理由だけで打ち切られた試合がサスペンデッドゲームとなる。

以上